



施設概要

鉄骨 2 階建て・延床面積799.94平方メートル。個室は男子用(1階)17室・女子用(2階)18室の計35室。1階には食堂、各階には浴室・洗濯室・交流スペース・学習演習室などを設け、サークル合宿やゼミ活動などの受け入れも可能。

若者交流センター「奥流」がオープン

若者の交流活動拠点を担う

3月30日、徳山区に完成した若者交流センター「奥流」の落成式が同施設にて挙行され、鈴木町長をはじめ関係者約40人が施設の完成を祝いました。

「奥流」は、町内の小・中・高校生同士の交流活動や、大学のゼミ・サークル活動の受け入れなど、町内外における若者同士の交流事業の拠点として利用されます。また施設内には、この地域で学ぶために町外から転入してきた「川根留学生」と町内の学校で教育実習を行う「教育実習生」が宿泊できる機能を有しています。

「奥流」という名称は「奥大井に向かつて若者が集い、舟をこぐオールのように心ひとつに切磋琢磨する場になるように」との思いを込め、神谷さつきさん(田代)が考案しました。

式典の中で鈴木敏夫町長は「町内外の多くの若者たちが、町民との交流を通じて豊かな人間性をここで育み、未来を担う人材となっていくことを願う」と式辞を述べ、今後の施設活用に期待を寄せました。



「川根留学生」 新たな生活がスタート

4月上旬、数日後に入学式・始業式を控えた「川根留学生」が続々と「奥流」に転入し、男子17人・女子7人の計24人が、家族の元を離れて「奥流」での新たな共同生活をスタートさせました。



川根高校1年
大石 瑞貴さん（静岡市清水区出身）
「引っ越してきてから数日で、すぐにみんなと仲良くなりました。高校では野球に打ち込みたいのですが、勉強も手を抜かないようにします」

川根高校1年
木所 滯南さん（静岡市駿河区出身）
「今まで苦手だった規則正しい生活ができるようになってきました。いろんな所から集まってきたみんなと話すのは新鮮で、とても楽しいです」



「私たちがサポートします!」

▼(Ⓔから)施設での調理・警備・清掃に従事する皆さん



「この町で学ぶ若者にとって
魅力ある空間となるように」

「奥流」での様々な経験を通し、町外の多くの若者にとって本町が「第二のふるさと」となることを期待しています。また、若い世代の町民にとっても、交流者とのふれあいを通じて、町の魅力を再発見する絶好の場所となります。「奥流」の名に込められた「若者みんな」の思いのとおり、町内外の若者が、お互いに高め合い、磨き合う、そんな相乗効果を得られるような事業を創出していきたいと思います。



町教育委員会
宮島 明利 管理主事